第４７回　養父市地域公共交通会議
第４４回　養父市地域公共交通活性化協議会

▼日時：令和８年９月 29 日(火)午前 10 時 00 分～
▼会場：養父公民館　１階　他産業就業研修室

１　開　　会

２　あいさつ

３　報告事項

報告第１号　コミュニティバス運行実績について

【主な意見】

（委員１）

年間乗車人数の減少要因はなにか。

（事業者１）

主に少子化に伴うスクールバス利用者の減である。

報告第２号　自家用有償バス運行実績について

【主な意見】

特になし

報告第３号　自家用有償観光旅客等運送実績（やぶくる）運行実績について

【主な意見】

特になし

報告第４号　高齢者優待乗車証の交付実績について

【主な意見】

（事業者２）

事業者の要望として、乗車証を提示されない方がいるため、交付時にも案内をお願いしたい。

（市１）

添付資料のチラシのとおり今年度より１乗車料金を 150 円から 200 円に見直した。今のところ苦情や大きな影響は無い様子である。

（会長）

事業費の増加要因はなにか。

（市１）

事業費は全但バスの乗降調査による結果である。初乗り運賃の値上げも影響し

ていると思われる。

報告第５号　高校生通学費補助事業実績について

【主な意見】

（委員２）

中学生の資料や実績が無いのはなぜか。実質無料だからか。

（市２）

中学校、小学校ともに路線バスをスクールバスとして利用する場合は、定期券を発行しており、実質無料である。

報告第６号　やぶくるの自家用有償旅客運送に係る登録事項変更届出について

【主な意見】

特になし

４　そ の 他

関宮地域デマンド交通実証実験について

【主な意見】

（委員２）

住民説明会での住民の反応はどうか。八鹿に行くためには、関宮地域局までとなり、路線バスに乗り換えが必要になるなど、メリットもあればデメリットもある。これまでの実証でどう捉えているか。

（市３）

発端は路線バスを維持するための運転手不足。今後、路線の維持ができなくなった際の交通手段としてデマンドが出てきた。

ハチ高原の民宿の方などからは、定時のバス路線よりもデマンドの方がありがたいという声もある。関宮地域の絶対数が減る中でどんどん利用されるという見通しはないが、ブラッシュアップし住民に喜ばれるツールになるよう努めたい。

（委員２）

自分の住んでいる地域の将来の交通がどうなってくのかを住民が理解することが大切。情報を共有し、腹を割って将来を考えて欲しい。

（市３）

自分ごととして捉え、考えて欲しい。住民説明会の年齢層は中高年、初老までの方、まだまだ自力移動が可能な方が多かったが、自分が利用する側になったら、という視点で考えてもらいたいと繰り返し訴えている。

養父市自動運転バス実証事業の取り組みについて

【主な意見】

（会長）

実証実験を行ったことはわかるが、降雪の課題などは上士幌町や永平寺町でも行っており、問題の解消ができないのか。

（事務局）

他市町の取組の詳細については十分把握出来ていないが、降雪時については、おそらく運休しているか冬季期間は運行そのものをしていないと思われる。確認したい。

５　意見交換

【主な意見】

（事業者３）

やぶくるが始まった頃、私は関係者に地域貢献の気持ちでやってほしいと言ってきたが、それだけでは難しい事案も出てきている。例えば待機時間 15 分までは無料としており、15 分を超えると料金が発生するのが本来だが、利用される方の多くはどうしても動くのに時間がかかる高齢者、足のお悪い方、中には全盲の方もいらっしゃる。また、地域密着のやぶくるは、ドライバーとお客さんが顔見知りも多い中で、（追加料金の）運用をしにくい実態がある。そういった状況の中で、待機をとりやめ、行き、帰りそれぞれ１運行にしようという検討もしている。ドライバーも他に仕事を持っておられる方もおり、それならば待機時間は一度帰らせてもらう。帰りは別のドライバーがきちんと運行するといった方法も可能になる。

（事業者３）

通院の際などは、ヘルパーやサポートされる方が同乗される場合もあれば、やぶくるに乗せるとあとはドライバーにお任せするという方もおられる。場合によって、病院についたからといって、「はい、さようなら。」という訳にはいかず、玄関まで、窓口まで付き添うという事もある。

（委員２）

自治協議会でアンケートを行い、病院で各診療科を回り、先生の診察結果を一緒に聞き、薬局までサポートするというサービスができないかという検討をしている。

（会長）

本日お集りの皆さんからも、こういった課題に対し良い提案があれば欲しい。

（委員２）

自治協議会を法人化して車両を購入し、構成員が利用するというスキームの取組があり、無償であれば登録が必要ないと聞いた。皆でこういった知恵を回さなければ、人口減少、高齢化に追いついていかないのではないかと感じている。

（市３）

人口が減り、行政への依存が強まる中で地域の課題は地域でという考え方は大

変ありがたく感じる。公共交通事業者の力も無尽蔵ではなく、それぞれの主体がお互い歩み寄りながら考えていければありがたい。

（委員１）

安全運行が最優先であるため、無償だから登録しないではなく、安全運行体制を整え、登録等をしていただきたい。

（市１）

75 歳以上の方、障がいをお持ちの方などに対し年間 6 万円を上限にタクシーの半額補助を実施しており、令和 7 年度実績で、申請 1,615 件、延べ 4,110 件、14,978 回の利用がある。また、人工透析を受けられている方に対し非課税世帯は月 4 万円、それ以外の世帯は月 2 万円の補助もあり、情報提供させていただく。

６　閉　　会